

<ちょこっとコラム④⑤>

(聖書時代の生活と文化 その⑦)

「徴税人」 *Tax collector*

福音書には、徴税人／取税人と呼ばれる人々がしばしば登場します。文字通り、人々から税金を取り立てることを職業とした人たちです。彼らの多くはローマ政府から地方の税金徴収権を買い取った請負人で、政府との契約以上に徴税し、利を貪っていました。福音書に登場する徴税人たちは、ローマ政府のためか、ヘロデ王のために働く者であったか、明確に区別はできません。

異邦人のために働き、私腹を肥やしていた徴税人は、神に背くものとして人々に忌み嫌われ、罪びとと呼ばれていました。しかし主イエスは、彼らに対して愛を示し、マタイ（レビ）を十二使徒の一人として招き、またザアカイの家に客として入られました。